



NEWS LETTER vol. 25

これからの地方自治・地方政策を考える

連続自治体特別企画セミナー (KPIセミナー) 第1回セミナー

6月23日(木)、今年度第1回目のKPIセミナー『女性活躍は誰のため? 何のため? ~地域を元気にする仕事づくり・人づくり~』を開催し43名の来場を頂きました。講師には京都産業大学経済学部の藤野敦子教授とNPO法人石巻復興支援ネットワーク(やっぺす)代表理事の兼子佳恵さんをお迎えしました。本セミナーは、男女共同参画の視点から、「地域創生」と「女性活躍」が交差する点について整理を行い、今後の自治体に求められる発想について理解を深めることを目的に開催しました。

前半の藤野教授の講演では、「なぜ、女性は地方から都市へ向かうのか」をテーマに、若年女性の移動と日本の人口減少の関係についての解説があり、若年女性は「進学」によって都市へ向かい、出身地には戻らない傾向が強いこと、自らの「意思」で活躍の場を求めて都市へ移動しているという報告がありました。一方、大都市に移動した女性も仕事と子育ての両立が難しい現状があり、その理由は、男性稼ぎ型の賃金・雇用システムにもあるとの提起がありました。こうした地方と都市での「袋小路」を打開するためには、地方の環境を強みとして捉え、地方から「女性活躍」を進めることが有効ではないかという提案がありました。具体的には、①地方の方が女性のワークスタイルにあった働き方を創出しやすいこと、②自治体が率先して地域モデルを作ることができること、③地域づくりや関連した起業がしやすい環境などが、地方の「強み」として挙げられました。

後半は、やっぺすの兼子さんから、大手企業との連携、協賛による地域の女性の人材育成事業の紹介がありました。やっぺすの人材育成事業は、東日本大震災で被災した子育て中の女性たちが始めた仮設住宅でのニーズ調査から始まり、5年が経過しています。女性の起業件数や石巻市人材登録リスト登録者数の増加に加えて、女性がチャレンジする姿勢を育み女性のエンパワーメント(力づけ)に繋がっているなど、大きな成果が上がっているという報告がありました。

地域で「女性活躍」を男女共同参画の視点から進めていくためには、雇用、子育て環境の整備のほか、地域で根強い性別役割分業の規範意識を解消していくことも大切です。やっぺすでは、地域での「しがらみ」や「家族・親族からの反対」で再就職や社会参画に躊躇していた女性が次の一歩を踏み出すきっかけを提供して、女性の意欲や主体性を引き出し、こうした人材が地域そのものを変えていく循環をめざしています。地域で女性や若者がチャレンジする姿を身近な形で「見える化」し、地域社会もそれを受け入れることが地域の活力に繋がっていくことをやっぺすの取組は示しています。(文責: 上席研究員 鈴木暁子)

* 講演概要はホームページに掲載予定です(7/5以降)

報告



【参加者の声】

- ・男女共同参画について、労働という点からの考え方、講演を今まで聞くことが少なかったのも、とても興味深い内容でした。
- ・石巻のやっぺすの活動はとても精力的で素晴らしい活動であると思いました。人間同士の信頼関係が強固であることが活動を支えているのだと思いました。時代の流れと男女労働の変革が早急に必要であると、基本的な問題点をお聞きしながら感じました。
- ・考えるべきことが多いテーマだと思いました。さらに、女性の中の分断やパワーバランスについて掘り下げるようなテーマで講演などあれば大変興味深いと思いました。短い時間でしたが、集中して聞けたので良かったです。
- ・卒論を書く上で、大変示唆的なお話を聞くことができました。男女共同参画の取組みの行政評価の有効性を考える上で他国(フランス)が財政投資からジェンダー改革に転換したこと、起業による女性活躍が、細々としているようで、地域の潜在性を引き出す可能性があることを聞いたことは、私の価値観が変わり視野が広がりました。



連続自治体特別企画セミナー (KPIセミナー) 年間計画

第2回 9月16日(金)

第3回 10月13日(木)

第4回 日程未定

第5回 日程未定

今年度も原則木曜日開催、時間帯は15:00~17:15で予定しております。

詳細が決まり次第、ニュースレターやHP、Facebookなどでご案内いたします。

後援等について

KPIでは、共催や後援、協賛、協力というかたちで、地方自治体や企業、NPOと連携しながらイベント等を開催しています。

ご希望の方はKPIホームページの「諸手続き」にある、「後援等申請書」にご記入の上、メール又はFAXにてご連絡ください。

京都府立大学
京都政策研究センター
〒606-8522

京都市左京区下鴨半木町1-5

Tel & Fax : 075-703-5319

mail : kpiinfo@kpu.ac.jp

セミナーのご案内やニュースレターなどをメールマガジンで配信しています。

これからの地方自治・地方政策を考える

連続自治体特別企画セミナー (KPIセミナー)

第2回セミナー

「地域創生と住民主体のまちづくり～小規模多機能自治の最前線～」

9月16日(金) 15:00～17:15

場所 京都府職員研修・研究支援センター

講師 川北 秀人 氏(IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]代表)

板持 周治 氏(島根県雲南市役所政策企画部地域振興課 主査)

近年、住民主体のまちづくりに取り組む地域が増えてきています。「小規模多機能自治」とは、小規模ながらも様々な機能を持った住民自治の仕組みのこと。第2回KPIセミナーでは、小規模多機能自治の名づけ親であるIIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]の川北氏から、その意義をお話いただきます。また、先進事例として、平成の大合併を契機に小規模多機能自治の基盤整備、強化に取り組む、現在では全国への普及・拡大をめざしている島根県雲南市役所の板持氏にお話をいただきます。

(共催：株式会社日本経済研究所)

* 詳細・お申込はKPIのホームページ・Facebookをご覧ください。

KPIの体制について

事務局体制メンバー紹介2

KPIが新たな体制で動き始めて3ヶ月が経ちました。前号では、新事務局メンバー4名を紹介しました。今回は、同じく4月からKPIに加わった生命環境科学研究科の宮藤久士(みやふじひさし)教授の紹介です。

宮藤教授から一言



本年4月よりKPIメンバーの一員となりました宮藤です。研究分野は、木質バイオマス(木材)科学で、プラスチック原料や自動車用燃料の原料となる化学物質を、木材から作り出す研究を行っています。また、難燃性木質材料の開発や早生樹に関する研究も行っております。自然科学を専門とする立場をいかし、社会科学をご専門とされている他のメンバーとは違った切り口や視点で、KPIの各種事業に何らかの貢献ができればと思っております。どうぞ、よろしくお願いいたします。

京都市市町村職員の海外研修業務がスタートしました

KPIでは公益財団法人京都市市町村振興協会が実施する平成28年度市町村職員等共同研修である海外行政調査研究プログラムのカリキュラム企画や事前研修、研修実施に関する指導助言業務を行います。「アメリカ合衆国における都市と周辺自治体との広域連携、都市計画及び市民参画の実状等に関する調査研究」をテーマとした多岐に渡る分野の視察研修の実施に向けて準備を進めています。

舞鶴市・久御山町との地域貢献型特別研究が決定

市町村からの提案を受けて研究する本学地域連携センターの地域貢献型特別研究(ACTR)について、今年度も次の2テーマの研究をしていきます。

- ①舞鶴市での資源ごみのより効率的で効果的な収集・処理施策の検討(舞鶴市)
- ②旧山田家住宅と巨椋池を中心とする久御山町の地域資源の利活用に資する資料・情報を社会教育の観点から収集・分析(久御山町)

平成28年度地方創生実践塾 in 京都府綾部市を共催します

「地域資源を最大限生かした企業・NPO・市民・行政協働のまちづくり」

11月23日(水・祝)～25日(金) 場所：京都府綾部市「グンゼ記念館」など

KPIは一般財団法人地域活性化センター主催の宿泊型の地方創生実践塾 in 京都府綾部市を共催することとなり、KPIメンバーをはじめとする京都府立大学の教員が講師を務め、多彩なプログラムを提供します。お問い合わせ・お申込は、地域活性化センターホームページをご覧ください。

KPIリレーコラム

今年度からKPIに加わった精華町派遣職員 河西主任研究員が登場です！

「通勤の楽しみ」



お気に入りの風景・鴨川

京都政策研究センター
主任研究員かわにし せいこ
河西 聖子

スクーターで15分だった通勤が、電車で1時間半になって3ヶ月が経ちました。早起きや混雑した電車は大変ですが、そんな中での楽しみを3つご紹介します。

1つ目は読書。途中でうとうとすることも多々ありますが、仕事関係の本、旅行の本、雑学の本などを読む時間はとても楽しく、通勤時間もあっという間に感じます。

2つ目は寄り道。市内には、食べ物屋さんにしても、カフェ、パン屋、町家レストランなど、かわいくておいしいお店がたくさんあるので、途中で少し寄り道するのが大きな楽しみです。町をただぶらぶらしたり、雑貨屋さんなどを見るのも楽しいです。

そして最後3つ目が、季節や世の中の流れを感じることです。電車から見える木々や山の変化で季節を感じ、乗り合わせた方の会話が流行を知り、電車や駅の広告で社会の動きを知ります。これまで以上に広い範囲での毎日の観察がとてもおもしろく、また新しく知った言葉や概念で景色も違って見えるので、社会勉強の時間にもなっています。

以上のように通勤時間も楽しみながら、仕事の中で多くの経験と交流を行い、多様な目を持てるようになっていきたいと思います。